人気女優２２歳

第七巻

公衆の面前でヘアヌード

真夏のビーチ篇

海老沢　薫　著

内容

■著作権について
■まえがき
■第一章　極小ビキニで浜辺を歩く人気女優
■海老沢薫ＢＬＯＧ
■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説
※海老沢薫ＢＬＯＧ
・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。
https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■著作権について

「人気女優22歳　第七巻　公衆の面前でヘアヌード　真夏のビーチ篇」（以下本書と表記する）の著作権は【海老沢薫】にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー）により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第119条などの罰則がありますのでご注意ください。

■まえがき

人気女優・神里美優は、女芸人・北原貴子に弱みを握られたまま、ヘアヌード写真集の撮影を強要され続けていた。

前回のファミレスでの撮影で極限の羞恥を味わった後も、美優の体はなぜか疼き続け、日常の中で自らを慰めるほど淫らな感覚に侵され始めていた。

新たな撮影場所に指定されたのは、真夏のビーチ。美優は北原の指示通り、蛍光ピンクの極小ビキニ姿で一人で現れ、約束の時間を過ぎても姿を見せない北原を待つ。強い日差しの下で佇むうち、地元の女子大生らしき集団が近づいてきた。

彼女たちは美優の正体に気づくと「露出狂」の噂を真に受け、極小ビキニを無理やり奪い取り、砂浜で全裸に引き剥がす。乳房や秘部を弄ばれ、抵抗も虚しく絶頂させられた美優。

さらに逆立ちを強いられ、屈辱的なセリフを大声で叫ばされるうち、周囲の海水浴客たち

も集まり、好奇の視線と手でその裸身を貪るように鑑賞し始めた。

実は彼女たちも北原が雇った仕掛け人であり、撮影はすでに始まっていたのだ。北原は離れた場所からカメラを構え、全裸逆立ちで衆人に弄ばれる美優の姿を余すところなく収めていく。ビーチでの辱めが終わると、美優は逆立ちのまま次の場所へ引き立てられる。

そこは海辺の町で行われる夏祭りの会場。荘厳な山車に、からくり人形の代わりとして全裸の美優が逆立ちのまま縛り付けられたのだ。祭り囃子が流れる中、山車は町中を練り歩き、沿道の大勢の人々が「飾られた」人気女優の卑猥な姿を眺める。

秘部に仕込まれたローターの振動に美優は悶え、腰を振り、さらなる屈辱の言葉を叫ばされながら、夏祭りの見世物と化していく。

北原は満足げにシャッターを切り続け、美優のプライドは波のように容赦なく浚われていくのだった。

日常を離れた浜辺と祭りの場で、人気女優が晒す過激な痴態。羞恥と快感が交錯する撮影は、どこまでエスカレートしていくのか

■第一章

極小ビキニで浜辺を歩く人気女優

ヘアヌード写真集の撮影が極秘に始まってからというもの、美優の毎日は憂鬱に彩られていた。先日のファミレスでの撮影では、大勢の客達が見つめる前で素っ裸を晒し、四つん這いで店内を引き回されるという極限の羞恥地獄を味わう事になったのだった。

その後、現場に居合わせた客達がそれぞれのSNSで、その時の様子を捉えた画像や動画を投稿したが、何らかの力が働きかけたのか、それらはすべて捏造されたフェイクとして扱われ、世間に広く拡散されることはなく、幸いにも人気女優神里美優のイメージが損なわれる事はなかった。

しかし、美優の心には決して癒えることのない深い傷が残ると同時に、ファミレスでの撮影があった日からずっと、美優は全身がなぜか無性に疼くのを感じていた。あれだけ恥ずかしい目に遭ったというのに、どうして体

が火照り、淫らな気持ちになるのか、美優にはそれが全く理解できなかった。

主演ドラマの撮影でスタジオにいる時には、休憩時間になるとすぐにトイレに向かい、疼く体を自らの手で慰め、あの日の事を思い出してすぐに絶頂した。私、何だかおかしくなってる・・・。美優は極限の羞恥地獄を体験したことで自分自身がだんだん淫らな女に変貌してきている事を実感していた。

そうして、ファミレスでの撮影から二週間が過ぎた頃、再び女芸人の北原貴子から連絡があり、新たなヘアヌード撮影が行われることになったのだった。今度は一体どんな恥ずかしい目に遭わされるのだろう・・・。美優は連絡を受けた瞬間から心臓の鼓動が激しく高鳴り、下半身が無性に疼き出すのを感じていた。

撮影当日、美優は北原の命令に従い、マネージャーを同伴せずに一人で現場へと向かった。次の撮影場所として指定された場所は、

目の前に青い海と美しい砂浜が広がる真夏のビーチであった。そこには地元の人々らしき大勢の海水浴客達が夏を満喫している姿が見えた。最寄りの駅からタクシーでやって来た美優は、ビーチの近くにあるトイレで北原から指定された水着に着替えた。それは、こないだのファミレスの撮影の時にも着ていたピンク色の極小ビキニで、美優の成熟した体がほとんど露出してしまっていた。

美優は破廉恥な極小ビキニ姿で浜辺の端に立ち、北原が現れるのを待った。しかし、約束の午後一時を過ぎても北原は一向に現れる気配がなく、美優は空から降り注ぐ夏の強い日差しに延々と晒されることになった。

そうして、美優が二十分以上も浜辺に佇んでいると、ビーチに遊びに来ていた地元の女子大生らしき集団が、破廉恥なビキニ姿の美女に気づき、意味深な笑みを浮かべながら美優の方に近づいてきたのだった。いやぁっ、こっちに来ないで・・・。彼女達のただなら

ぬ気配を感じ取った美優は表情を強張らせ、思わず後ずさりした。

「お姉さん、ちょっと待ちなよ！」

「私達と一緒に遊ばない？」

美優が逃げようとすると、彼女達は大声で呼び止め、小走りで美優に駆け寄ってきた。

あぁん、来ないで・・・。美優は恐怖に戦き、心の中で必死にそう叫んだが、あっという間に彼女達に周りを取り囲まれてしまったのだった。

「あれ？お姉さん、もしかして女優の神里美優ちゃんじゃない？」

「わぁ本当だ！すご～い、なんで美優ちゃんがこんな所にいるの？」

「それにしても、なによこの水着！オッパイもお尻もほとんどはみ出てるじゃない！」

「美優ちゃん、こんなスケベな水着着て何してるの？」

彼女達は派手な極小ビキニを着た美女が人気女優の神里美優であると分かると、驚愕の表

情を浮かべ、興奮した様子で極小ビキニからはみ出た美しくも卑猥な体を鑑賞した。

「あぁん、そんなに見ないでください・・・」

いきなり正体を気づかれてしまい、同世代の彼女達に恥ずかしい水着姿をガン見された美優は、両手で胸元と股間を隠し、必死にその視線から逃れようとした。

「美優ちゃん、もしかしてプライベートで遊びに来たの？それでこんなエッチな水着を着て露出ごっこでも楽しんでいたんでしょ（笑）」

「そう言えば、ネットの記事で美優ちゃんが実は露出狂だって書いてあるのを見たことあるわ（笑）」

「あの噂本当だったんだね。それにしてもこんなオッパイもお尻も丸出しの恰好で良く海に来れたね（笑）」

「あぁん、ごめんなさい・・・」

彼女達はそう言いながら、人気女優の体の隅々までを舐め回すように眺めた。

彼女達の視姦に耐えかねた美優はそう言って、彼女達を押しのけてその場から離れようとした。

「美優ちゃん、逃げないでよ！」

「私達と一緒に遊びましょ！」

彼女達はそう言うと、美優の両腕をガッチリと掴み、強引に海の方へ連れて歩いた。

「いやぁん、やめてください！」

北原と会う前に思わぬ事態に巻き込まれてしまった美優は、どうにかして彼女達の手から逃れようともがいたが、数人がかりで腕を掴まれていてはどうすることもできなかった。

そうして、彼女達は波打ち際まで美優を連れてくると、いきなり胸元に手を伸ばしビキニトップを奪い取った。

「キャッー、やめて返して！」

乳房を丸出しにされてしまった美優は必死に叫んだが、彼女達は奪い取ったビキニボトムを順番に振り回しながら、泣き叫ぶ人気女優の姿を面白そうに眺めるだけだった。

「美優ちゃん、こっちももらうね（笑）」

彼女達の一人がそう言うと、今度は下半身に手を伸ばしてビキニボトムの両脇の紐を外して引ったくるように奪い取った。

「あぁん、いやぁん・・・お願い返して！」

とうとう浜辺で素っ裸に引ん剥かれてしまった美優は大声を出して懇願した。

「美優ちゃん、そんな事言って本当は嬉しいくせに（笑）」

「露出狂の美優ちゃんには裸の方がお似合いよ（笑）」

彼女達はそう言って、浜辺で素っ裸になった人気女優を嘲笑った。

美優の裸身は同性が羨むほど美しく、彼女達の欲情を煽り立てた。そして、彼女達は同じ女性としての嫉妬から美優を虐めたい衝動に駆られ、その剥き出しの乳房に手を伸ばすと、鷲掴みして揉みしだき始めたのだった。

「あぁん、馬鹿なことはやめてくださいっ！」

素っ裸にされた挙句、胸まで揉まれた美優は、体を捩らせながら懇願し続けた。しかし、その姿は彼女達の加虐心をますます煽ることになり、彼女達は美優の両方の乳房を丹念に揉みしだいたり、乳首を弄ったりして人気女優の喘ぐ姿を楽しんだ。

「あぁん、こんなのイヤぁっ」

美優は写真集の撮影で訪れたビーチで、女芸人の北原貴子に辱められる前に、まさかの素人達に強姦されてしまい、心がまったく追いついていかなかった。

すると、調子に乗った彼女達は人気女優の乳房を揉むだけでは飽き足らず、ついに下腹部にまで手を伸ばし、秘部に指を挿入したのだった。

「美優ちゃんのアソコ濡れてるじゃん（笑）」

「美優ちゃん厭らしい、もうこんなに濡らしているの（笑）」

彼女達は秘部に挿入した指を一度出して、指先に付着した汁を美優の目の前で見せびらかした。

「いやぁん・・・」

美優はあまりの恥ずかしさに首を何度も左右に振って喘いだ。

「美優ちゃん、仕方ないから私達が今からもっと気持ち良くさせてあげるわ（笑）」

「おもいっきり悶えるのよ（笑）」

彼女達はそう言うと、美優の乳房と秘部の両方を同時に弄り始めた。

「あぁぁん、やめてぇ！」

同性の繊細な手つきで性感帯を弄られた美優は、堪らず大きな声を出して喘いだ。このままでは北原がやって来る前に、彼女達の手でイッてしまう恐れがあり、美優はそれだけはどうにかして逃れようと懸命に体を揺らして抵抗した。

「美優ちゃん、そんなに暴れないでよ！」

「往生際が悪いわねぇ。大人しくしてな！」

彼女達はそう言って叱りつけると、乳房や秘部を弄る手にさらに力を込め、美優を快感責めにして大人しくさせようとしたのだった。

■海老沢薫ＢＬＯＧ

・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■そのほかＳＮＳ

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

https://www.pixiv.net/users/70200870

■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説

『清楚な美人妻　彩２７歳　絵画モデル編』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281

『清純派女優　結衣２４歳－国民のペットへと堕ちていくヒロイン－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802

『清純派女優　結衣２４歳－女神の憂鬱－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675

『女教師　玲奈２５歳－女性教諭の前代未聞の不祥事－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186

『美人社長　里帆２６歳－若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885